

I 2012年度認証評価における指摘事項(努力課題)

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

SSIの学生の所属学部は、非常に多様なので、各学部の専門科目とSSI科目を関連させた履修について、支援していく必要がある。また、各自のスポーツの鍛錬と所属学部の学習とのバランスをとりながら、スポーツと専門分野の知識の習得を共に行う必要もある。

そのため、「授業支援システム」の活用と、「SSI卒業予定者向けアンケート」などの結果の分析について、SSI執行部・運営委員会で十分に検討し、文武両道の学生を育成するのに相応しい方法・システムの構築を期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】(～400字程度まで)

「授業支援システム」の活用と、「SSI卒業予定者向けアンケート」などの結果の分析に基づき、SSI執行部・運営委員会で十分に検討することで、SSIの特徴を踏まえた教育方法・システムの構築を目指している。

SSIの特徴を踏まえた教育方法・システムの構築を目指す上で、教員のさらなる尽力が必要である。しかし、SSIには専任教員がおらず、各学部に所属する各教員がSSI専任教員として、SSIに参画している。SSIのみならず、所属学部、ILAC、通信教育部、大学院などに関連した多重な業務をこなしているSSI専任教員の負担を軽減するための善後策を探索しつつ、SSIの学生により良い教育方法・システムを提供できるように努めたい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ・サイエンス・インスティテュート(以降、SSI)において、「SSI卒業予定者向けアンケート」をSSI執行部・運営委員会で十分に検討しつつ、「授業支援システム」活用と、SSIの特徴を踏まえた教育方法・システムの構築を目指している点は、高く評価できる。さらに、多様な業務を兼任するSSI専任教員の負担を軽減するための方策を探索し続ける姿勢も評価できよう。

教育方法・システムの構築を通して、SSIの学生に対して充実した教育を提供しつつ、教員の負担を軽減できることを期待する。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム(質保証委員会等)を適切に機能させているか。

① 質保証活動に関する各種委員会(質保証委員会等)は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・これまでに、質保証活動に関する委員会は設置していない。しかしこれは、SSI運営委員会の規模が小さいためであり、委員全員が、質保証活動に関与しているためである。さらに言えば、SSI運営委員会には、各学部教授会から選出された専任教員(1号委員)だけでなく、SSI授業の担当教員(2号委員)が属していることから、運営委員会内で、質保証活動に関する議論は十分に行えていると考えている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

質保証活動にSSI運営委員会の全教員が関与していることは評価できる。SSI運営委員会の規模が小さく、質保証委員会を設置していないことも理解できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

だが一方、執行部を中心として運営するであろう SSI 運営委員会の場で、客観的に SSI における質保証活動が実施できるのか、という懸念も残る。今後は客観性を持った質保証の在り方についての検討も期待したい。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

限られた総コマ数の中で、SSI 生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、2015年度から、I・II と 2 コマ分開催していた複数の科目について、教育内容を整理・集約することで、科目を 1 つに集約した(例「スポーツ方法論 I・II」を「スポーツ方法論」に)。そのことによって、戦略的に総コマ数のゆとりを作った。そして、1) 市ヶ谷キャンパスで開講している SSI 主催科目を(市ヶ谷キャンパスに比べると開講科目数が少ない)多摩キャンパスでも開講する、2) 「スポーツ情報戦略論」など最新のスポーツ科学の知見に基づいた科目を開講するという、2つの展開を行っている。この展開は、SSI カリキュラムポリシーに沿ったものである。

なお従来、文学部の心理学科を除く 5 学科の SSI 生は、入学直後に卒業論文の単位を履修するかを判断しなければならなかった。しかし、文学部 SSI 運営委員の要請によって、2015年度より、上級学年になってからその判断を行えるように、文学部 5 学科の SSI コースのカリキュラムが変更となった。

【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう依頼した。

SSI 学生の特殊性を考慮すべきであるという指摘に関連して、運営委員会での過去数年間の議論・承認を経て、「スポーツ実習(競技名) I～IV」(半期 1 単位、在学中に 4 単位まで履修可)に関するカリキュラム変更に向けた学則改定を実施した。具体的には、8つの競技に限定して開講されていた「スポーツ実習(競技名)」から競技名を削除して授業名を「スポーツ実習」とし、全ての競技に取り組む SSI 生が履修できるようになる。そして、在学中に履修できる単位は 2 単位までとなる。

「スポーツ実習」の具体的な内容と、「スポーツ実習(競技名)」を閉講することによって生じた総コマ数のゆとりをどのように活用するかについては、2017年度の運営委員会で議論する予定である。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等

- ・ SSI 履修要綱・講義概要(シラバス)
- ・ 2016年度第4回 SSI 運営委員会議事録

②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

SSI の学生は、各学部所属しているため、各学部で行われている初年次教育に参加している。SSI においては、SSI 基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や、「スポーツ学入門」などが、初年次教育の役割を果たしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ SSI 履修要綱・講義概要(シラバス)

③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

SSI の学生は、各学部所属しているため、各学部で行われているキャリア教育に参加している。キャリア教育としては、「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ SSI 履修要綱・講義概要(シラバス)

2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。 S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学前の3月末に、SSI 新入生全員を招集し、SSI ガイダンスを行っている（2017年度入学性に対しては、2017年3月27日に実施）。 ・年度当初に行われる学部ガイダンス・学科ガイダンスでは、ほとんどの場合、ガイダンス終了後などに別途時間を設けて、SSI 生を対象にSSI に関するガイダンスを行っている。 	
<p>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>SSI ガイダンスに出席するよう、体育会各部の部長・監督に対して要請を行った。とりわけ、2016年度に出席者がいなかったラグビー部・弓道部・馬術部に対しては、執行部が個別に強く要請を行った。</p> <p>2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部のSSI 生に対してオリエンテーションやガイダンスを行うように依頼した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生のSSI ガイダンスへの参加について（お願い） ・SSI ガイダンスの開催について（ご案内） ・2016年度第4回SSI 運営委員会議事録 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S A B
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>3月末に行っているSSI ガイダンスにおいて、複数の教員（2016年3月27日は委員長・副委員長）が出席し、履修の際の助言を行ったり、授業への出席を強く促したりするなど、修学上の注意事項を説明している。</p> <p>SSI の学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定などを行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目（スポーツ心理学）において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の授業支援システムのホームページ 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目（スポーツ心理学）において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。また、授業支援システム（2016年度より本学で導入されたOATube）を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の授業支援システムのホームページ 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。 ・授業支援システム（2016年度より導入されたOATube）を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の授業支援システムのホームページ 	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>（～400字程度まで）※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>昨年度のSSI 科目担当者懇談会において、受講者数が教室の定員を超える授業があったと報告された。SSI は、学生数に鑑みると、開講できる総コマ数が少ないため、このような問題が生じやすい。</p> <p>そこで、SSI の学生が履修できる授業を増やすべく、2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目をSSI 専門科目として公開してもらえよう依頼した。さらに、「スポーツ実習（競技名）」を開講することによって生じた総コマ数のゆとりを活用することを検討する予定である。また、必修科目・大規模授業において、SAを配置することも検討する予定である。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度第3回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目をSSI 専門科目として公開してもらえよう依頼した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度第4回SSI 運営委員会議事録</p>	
⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・全てのSSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI 科目シラバス原稿作成の手引き ・法政大学シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通） ・SSI シラバスに関する疑義・指摘</p>	
⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・年度末において、SSI 主催科目担当教員による懇談会を開催している。 ・卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2016年度は、対象者204名中151名のデータを回収している（回収率74%）。このアンケート内で、SSI 主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果</p>	
2.3 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・運営委員会において、全学およびSSI のGPCA 平均集計表を配布している。 ・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学とSSI）</p>	
2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。 ・運営委員会において、全学およびSSI のGPCA 平均集計表を配布している。 ・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学とSSI）</p>	
②学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取組例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2016年度は、対象者204名中151名のデータを回収している（回収率74%）。このアンケート内で、SSI の授業に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p>	
<p>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度第4回運営委員会において、各委員に対してSSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を回覧した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>執行部が招集した SSI カリキュラム委員会において、カリキュラム編成や授業担当者に関する意見交換を行っている。年度末において、SSI 主催科目担当教員による懇談会を開催している。</p> <p>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度第4回運営委員会の終了後に、SSI 科目担当者懇談会を行った。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度第4回 SSI 運営委員会議事録</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・シラバスの「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」の欄を記入するよう、各教員に促している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業のシラバス</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・各学部で開講している科目(学部主催科目)をSSI専門科目として公開してもらえよう依頼した。その後、各学部の動向をフォローアップし、公開される学部主催科目を増やすことを目指す。 ・「スポーツ実習」の具体的な内容と、「スポーツ実習(競技名)」を開講することによって生じた総コマ数のゆとりをどのように活用するかについては、2017年度の運営委員会で議論する。 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果について、さらに詳細な解析を行い、2017年度第1回の運営委員会においてその結果を配布し、運営委員会においてきめ細かな検討を行う。さらに、アンケート集計結果は、所属学部で周知してもらえよう依頼する。 ・授業支援システムの利用方法について、SSI授業担当教員間で情報交換を行う。

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (2.1)

<p>SSI 学生の能力育成のため、SSI 主催科目の見直しを行い、科目の整理・集約化を通して、多摩キャンパスでの開講をはじめ、最新のスポーツ科学に関する新しい科目の開講を進めてきたことは、高く評価できる。さらに、全ての競技に取り組む SSI 学生が履修できるように、「スポーツ実習(競技名)」を開講し、「スポーツ実習」を開講するという取り組みも、評価できよう。こうした改善によって、新たに開講される科目を上手く活用し、さらなる教育効果が生まれることを期待する。</p> <p>初年次教育への配慮も、所属学部の初年次教育に加え、SSI 基礎科目が開講されており、対応できているといえよう。高大接続については、今後の課題であろう。</p> <p>キャリア教育については、所属学部のキャリア教育に加え、SSI 独自のキャリア教育科目が開講されており、対応できている。</p>

②教育方法に関すること (2.2)

<p>SSI 新入生については、入学前の履修指導のガイダンスの実施、そして2年生以降の学生に対しては、所属学部ガイダンスの機会を活用したガイダンスの実施が行われており、履修指導は適切である。さらに、出席しない学生が所属する体育</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

会各部の部長・監督に個別に要請していることは、高く評価できる。学習指導についても、SSI にとって重要な授業支援システムの使い方を解説しており評価できる。

学習時間確保への方策については、欠席者や復習を行いたい学生に対して動画が提供されており、評価できる。動画に加えて、アクティブラーニングを採用する講義もあり、効果的な授業形態の導入も図られている。1 授業あたりの学生数については、受講人数の平準化に向けて開講科目数の増加や、SA の採用を検討しており、配慮されているといえる。

シラバス作成の検証、個別指導が執行部により行われており、評価できる。シラバスに沿って授業が行われているかの検証については、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を利用し検証しているのは評価できるが、学期毎の授業改善アンケートを上手く活用できていないのは課題であろう。

③学習成果・教育改善に関すること (2.3～2.5)

成績評価については、SSI 運営委員会での GPCA 集計表の配布や、評価方法に関する意見交換が行われており、評価できる。学生の学習成果の把握・評価については、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を利用し、運営委員会で共有し、意見交換を行っており評価できる。

学習成果の組織的・定期的検証、改善に向けた取り組みについては、SSI カリキュラム委員会を設置し、意見交換の実施や、SSI 主催科目担当教員による懇談会が行われており評価できる。だが、学生による授業改善アンケート結果が組織的に利用されているとはいえ、今後の課題であろう。

なお、同じ内容が記述されている箇所がいくつか見られるため、重複する内容を簡略化し、より各項目に適した記述となるよう望む。

3 教員・教員組織

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程に則って、運営委員会を構成し、執行部を構成している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

SSI は学部横断的な仕組みである。そして、各学部より選出された、各学部のカリキュラムに精通した運営委員で構成される運営委員会によって、運営されている。執行部は、定例の執行部会議を毎月開催するだけでなく、必要に応じて臨時の執行部会議を開催し、運営委員会を主導している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）等内の FD 活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD 活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・全ての SSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。

【2016 年度の FD 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・各教員は、各学部において行われている FD 活動に参加し、必要に応じて、運営委員会においてフィードバックを行っている。

・2016 年度第 4 回運営委員会の終了後に、SSI 科目担当者懇談会を行い、授業に関する問題点や課題について意見交換を行った。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ SSI 科目シラバス原稿作成の手引き
- ・ 法政大学シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通）
- ・ SSI シラバスに関する疑義・指摘

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・ SSI には専任教員がおらず、各学部にも所属する各教員が SSI 専任教員として、授業担当や学生の履修指導・学習指導に尽力している。所属学部の科目、ILAC 科目、大学院科目、通信教育部の科目など、様々な多くの科目を担当せざるを得ない状況にある。今後、SSI 専任教員の負担を軽減するための善後策を探索したい。

【この基準の大学評価】

<p>SSI 運営委員会規定が設定されており、役割分担、責任の所在は明確にされているといえる。</p> <p>FD 活動については、所属学部の FD 活動の共有をはじめ、SSI 科目担当者懇談会を開催し、授業の問題点や課題について意見交換を実施しており、評価できる。</p>

IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSI において、より幅広い教育内容を提供するために、本学スポーツ健康学部に対して、SSI との連携強化を呼びかける。具体的には、SSI 主催科目の授業担当や、スポーツ健康学部の科目を SSI に公開することを検討するよう依頼する。2016 年度において、SSI の授業を担当しているスポーツ健康学部の専任教員は、17 名中 3 名にとどまっている。また、スポーツ健康学部の授業で、SSI 生に公開されている授業は存在+A8:C8 しない。 ・ SSI では、その性質上、アドミッションポリシーやディプロマポリシーを作成することはできないが、カリキュラムポリシーを策定することは可能であると考えられる。そこで、今年度は、SSI のカリキュラムポリシーを策定する。
年度末報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ健康学部の執行部に対して、SSI との連携強化を呼びかけた。 ・ その結果、2016 年度において、SSI の授業を担当しているスポーツ健康学部の専任教員は、17 名中 3 名にとどまっていたが、2017 年度から 4 名に増えることが確定した（成田専任講師がアスリートキャリア論を担当する）。 ・ 本学スポーツ健康学部の執行部に対して、スポーツ健康学部の科目を SSI に公開することを検討するよう依頼した。 ・ SSI のカリキュラムポリシーを策定し、2016 年度第 2 回運営委員会で承認を得た。
評価基準	教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2017 年度からの ILAC のカリキュラム改革に伴い、各学部に対して、SSI 卒業所要単位変更の要求を行う。 ・ 「アメリカンフットボール部」「サッカー部」「水泳部」「テニス部」「バレーボール部」「ラグビー部」「陸上競技部」「バドミントン部」の 8 部に所属する SSI 生に対しては、SSI 主催科目として「スポーツ実習」を開講し、部活動と連動した単位認定の仕組みを整えている。しかし、他の部に所属する SSI 生については、そのような仕組みが存在しない。そこで今年度は、この実習科目の見直しについて、運営委員会において意見交換を行う。運営委員会で具体的な提案がなされ、その提案が運営委員会で承認された場合は、その提案に

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		したがって SSI のカリキュラム改定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> SSI 生が卒業するためには、最低でも SSI 科目を 44 単位履修する必要がある。44 単位という単位数に鑑みると、SSI で開講している科目の数はきわめて限定的である。そこで、SSI 生が履修できる科目数を増加させるために、各学部の学部主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう、各学部に対して働きかける。なお、2016 年度に各学部で主催している科目のうち、SSI 専門科目として SSI に公開されている科目は、市ヶ谷キャンパス 40 科目（春学期科目 22 科目、秋学期科目 17 科目、年間科目 1 科目）、多摩キャンパス 60 科目（春学期科目 29 科目、秋学期科目 31 科目）である。一方 SSI では、SSI コースに所属していない学生に公開している科目も複数存在する（例「アスリートキャリア論」）。
年度末報告	執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 2017 年度からの ILAC のカリキュラム改革に対して要求を行うための準備（要求書の作成）をしていたが、従来と SSI 卒業所要単位が変わらないことが判明したため、要求は行わなかった。 「スポーツ実習」科目に関する提案について、過去数年間に引き続き、2016 年度第 1 回～第 3 回運営委員会において議論を行い、その後承認されたため、カリキュラム変更に向けた学則改定を実施した。 2016 年度第 3 回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう依頼した。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> SSI ガイダンスに出席するように、毎年 3 月に開催される部長・監督会において注意喚起をしている。2016 年度の出席状況は 215 名中 177 名であった（出席率 82.3%）が、出席者のいない部が 3 部あった（ラグビー部、弓道部、馬術部）。そこで、この 3 部についてはとくに、新入生の出席を促すよう強く要請する。 SSI コースを開講している全ての学部に対して、学部内で SSI に関するオリエンテーションやガイダンスを行うよう働きかける。
年度末報告	執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 3 月に部長・監督会が開催されなかったため、メーリングリストを活用して、SSI ガイダンスに出席するよう、体育会各部の部長・監督に対して要請を行った。とりわけ、ラグビー部、弓道部、馬術部に対しては、執行部が個別に強く要請を行った。 2016 年度第 3 回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の SSI 生に対してオリエンテーションやガイダンスを行うよう依頼した。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		運営委員会において、SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を配布して、意見交換を行っているが、今後は各委員に対して、この集計結果を各学部で周知してもらえよう依頼する。
年度末報告	執行部による点検・評価	2016 年度第 4 回運営委員会において、各委員に対して SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を回覧した。今後、さらに詳細な解析を行い、2017 年度第 1 回の運営委員会においてその結果を配布し、所属学部で周知してもらえよう依頼する予定である。

【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

教員・教員組織における、SSI とスポーツ健康学部との連携強化という課題に対して、同学部より専担教員を 1 名増加できており、成果がみられる。なお、スポーツ健康学部執行部に対して同学部講義の SSI への公開科目依頼や、SSI カリキュラムポリシーの策定は大きな成果であるが、教員・教員組織での評価というより、次の教育課程・教育内容に適した内容にみえる。

教育課程・教育内容における、各学部による SSI への公開科目が不十分であるという課題に対しては、前述通り、スポーツ健康学部執行部への公開科目依頼が行われ、進展がみられる。さらに、競技によっては「スポーツ実習（競技名）」を履修できないという課題に対しては、全ての競技の SSI 学生が受講できる「スポーツ実習」が開講されることとなり、高く評価できる。

教育方法における、ガイダンスの出席率向上という課題に対して、出席率の悪い体育会各部の部長・顧問への個別の要請なども、評価できよう。

成果においては、SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果について、委員の所属する各学部での共有という課題に対して、依頼を実施したことまでは確認できた。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【大学評価総評】

法政大学の学生としての総合的な知識の修得とともに、文化と科学としてのスポーツの理解を図り、これからのスポーツ文化の担い手を育てるといふ、SSI の目的は達成できるといえよう。

自己点検・評価においては、SSI が現状の課題を的確に把握し評価を行い、資源や制度という制約条件の中で、具体的な改善・対策を計画し、着実に課題に対応できているという点は、高く評価できる。

こうした中、とりわけ、SSI の学生の実態や課題を踏まえた、科目の改編および充実をはじめ、授業支援システムの積極的活用、使い方解説、SSI 学生の所属学部でのガイダンス実施、そしてガイダンス出席率向上の方策は、他学部も参考にできる内容であろう。

一方、課題としては、科目改編等に伴って新たに発生する可能性のある課題の把握・評価の検証も必要であろう。そのため、学期ごとに把握できる「授業改善アンケート」の活用が望まれる。さらに、全学的課題としては、SSI 専任教員だけでなく、SSI 学生の所属学部は、各学部の初年次教育や専門科目と、SSI 科目と関連させた履修の支援の充実があげられよう。

今後さらに、授業支援システムや科目の改編などの教育方法・システムの構築を通して、SSI の学生に対して充実した教育を提供しつつ、同時に所属学部と SSI の兼任により多忙となる SSI 専任教員の負担を軽減できることを期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。